

第51回衆議院議員選挙の結果を受けてのJAM書記長談話

2月8日に投開票を迎えた第51回衆議院議員選挙は、自民党が単独で全体の3分の2以上の議席を獲得し、高市政権の継続という国民の審判が下された結果となった。

この結果は、自民・維新の与党が絶対安定多数を確保したことから、国防に関する政治姿勢や憲法改正にも踏み込めてしまう環境ができてしまった。また私たちの働き方に大きく関わる労働基準法も改悪される懸念がある。われわれと支援政党である立憲民主党は、公明党と新たに中道改革連合を立ち上げ、対峙したものの、大幅に議席を減らす結果となり、また国民民主党も伸び悩み、野党勢力は大幅に弱まる結果となった。今後の政局の動向に対して対抗手段を練り直す必要がある。

JAMの視点で選挙結果を見ると、JAM組織内候補、愛知14区「おおたけりえ」の再選はかなわなかったが、JAMものづくり国会議員懇談会の前職5人の重点推薦候補は全員が当選した。しかし、推薦候補者184人のうち前回の132人から37人と大きく議席を減らす結果となった。

とりわけ「おおたけりえ」の戦いは、2期目の当選を目指して解散から公示日まで極めて短い期間での戦いの中、JAM東海および東三河地協が中心となり、JAM本部、連合愛知構成組織による協力体制を構築し、連合組織内候補として選挙戦に臨んだ。春闘時期とも重なり、労組役員もできうる限りの対応をしてきたが、自民党候補を前に選挙区では苦汁を飲む結果となり、JAM組織内衆議院議員の議席を失う結果となった。すべての関係者各位に、心から御礼、感謝を申し上げたい。

JAMが掲げる政策の実現に向けて、決して下を向くことなく前を向いて引き続き現場の声を国政に届けるべく、組織強化の取り組みを推進し、実現していこう。

2026年2月9日

J A M

書記長 岩崎和人